心身科学 第10巻第1号（15–20）（2018）

リーダーの構造づくり行動が学生アルバイトの予防焦点に与える影響
―役割明瞭性の媒介効果の検討―

三ツ村　美沙子＊1）　高木　浩人＊2）

本研究の目的はリーダーシップがフォロワーの予防焦点に与える影響を役割明瞭性が媒介するというモデルを検証することであった. 89名の学生アルバイトを対象とした調査の結果，役割明瞭性はリーダーの構造づくりがフォロワーの予防焦点に与える影響を完全媒介していた．今後の研究への含意が議論された.
キーワード：リーダーシップ，制御焦点，構造づくり，予防焦点，役割明瞭性

Ⅰ．問　題

1．はじめに

非正規雇用の人材不足が問題となっている昨今，学生アルバイトの需要も高まりを見せている．時給を上げて人材を確保しようとする企業側の動きも聞かれる．さらに，従来の正社員の仕事を非正規労働者にも任せるという非正規労働者の基幹労働力化が進んでいる中（武石，2002），学生アルバイトにはよりいっそう責任感をもってその役割を果たすことが求められているだろう．学生アルバイトに責任感をもって仕事に取り組んでもらうためには，その個人にもともと備わっている責任感の強さといった特性に頼るだけでなく，企業側からの働きかけによってそのように方向づけることも重要である.

企業側からの働きかけの典型は，リーダーがフォロワーに対して行使するリーダーシップである．Neubert, Kacmar, Carlson, Chonko, & Roberts（2008）は，上司のリーダーシップ行動がフォロワーの責任感や義務感に基づく目標志向性である予防焦点（prevention focus）の程度に影響を与えていることを明らかにしている．そこで，本研究ではリーダーシップ行動とフォロワーの予防焦点の関係に着目し，そのメカニズムについて詳細に明らかにすることを目的とする.

2．リーダーシップがフォロワーの予防焦点に与える影響

予防焦点とは，Higgins（1997）が提唱した制御焦点理論（regulatory focus theory）に端を発する概念である．この理論では，利得の存在 - 不在に敏感な促進焦点（promotion focus）と，損失の不在 - 存在に敏感な予防焦点（prevention focus）という2つの目標志向性の存在を仮定している．促進焦点的な人は自分の理想や希望の達成，成長や進歩への関心が高いのに対し，予防焦点的な人は自分の責任や義務の遂行，失敗や損失の回避への関心が高い（Higgins, 1997）.

このような制御焦点の形成に関しては，養育者のような長期的な役割モデルが子どもの制御焦点に影響を及ぼすことが知られている（Higgins & Silberman, 1998）．これは特性としての制御焦点と言える．その一方で，状況的手がかりによって異なる制御焦点が喚起されることも明らかにされており（Crowe & Higgins, 1997; Friedman & Förster, 2001），組織リーダーのような短期的な役割モデルがフォロワーの制御焦点に及ぼす影響についても議論が進められている．たとえばKark & Van Dijk（2007）は，交流型リーダーはフォロワーがすべきことを明確にすることから，それによってフォロワーの予防焦点を喚起すると考えた．なぜなら，リーダーの発する言葉が責任に焦点を当てたものであるほど，フォロワーは予防焦点を引き起こすと予想されるからである（Brockner &

＊1）愛知学院大学大学院心身科学研究科心理学専攻研究員
＊2）愛知学院大学心身科学部心理学科教授
（連絡先）　E-mail：misako.mitsumura@gmail.com

Higgins, 2001）．このような考えから，Neubert et al.（2008）はリーダーシップ・スタイルとしてフォロワーのすべき課題を明確にする機能をもつ構造づくり（initiating structure）行動を取り上げ，社会人を対象にフォロワーの予防焦点との関連を検討している．その結果，リーダーの構造づくり行動がフォロワーの予防焦点に正の影響を及ぼすことを明らかにしている．そして高められた予防焦点が役割内パフォーマンスを高め，逸脱行動を抑制していた．したがって，学生アルバイトを対象とした場合でも，リーダーの構造づくり行動がフォロワーの予防焦点を高めることが予想される．

しかしながら，フォロワーの予防焦点に対するリーダーの構造づくり行動の影響を詳細に考えると，構造づくりが直接に予防焦点を高めるとは想定しにくい．そこには構造づくりがフォロワーのやるべきこと，つまりはフォロワーの役割を明瞭にすることによって，結果的にフォロワーの関心が果たすべき責任や義務に方向づけられ，フォロワーの予防焦点が高まる（Kark & Van Dijk, 2007）という過程の存在が予想される．そこで本研究では，リーダーの構造づくり行動がフォロワーの役割明瞭性を高めることでフォロワーの予防焦点を高めるという影響過程を仮説とし，学生アルバイトを対象に実証的に検討する．

Ⅱ．方　法

1．調査対象

調査対象は大学生188名であり，そのうち回答に不備のなかった130名の中で「現在最も長く所属している組織」として「アルバイト」を挙げた89名（男性26名，女性63名）を分析対象とした．学年別では1年生が60名，2年生が28名，3年生が1名であり，平均年齢は19.16歳（SD＝.66歳）となった．また，調査対象者のアルバイト平均勤続期間は5.99か月（SD＝3.42か月）であった．

2．質問紙の構成

フェイスシート　性別，学年，年齢について回答を求めた．

予防焦点　現在最も長く所属している組織を1つ想起，回答させた後，その組織での予防焦点を測定した．尺度はLockwood, Jordan, & Kunda（2002）の邦訳版（尾崎・唐沢，2011）8項目を使用し，「その組織での自分の責任や役割を果たせていないのではないかと，よく心配になる」というように項目内容を一部修正した．

役割明瞭性　Rizzo, House, & Lirtzman（1970）を参考に「その組織で自分に何が期待されているのか正確にわかる」などの計3項目を設定した．

リーダーの構造づくり行動　Stogdill（1963）の Leader Behavior Description Questionnaire（LBDQ XII）の構造づくり行動を測定する項目から，Schriesheim & Kerr（1974）に基づいて「リーダーは，私（私たち）にはっきりと態度を示してくれる」といった5項目を用いた．回答者にはリーダーを1人想起してもらい，そのリーダーに各項目の内容がどの程度あてはまるか評定を求めた．

以上の尺度については，すべて「1．全くあてはまらない」～「5．非常にあてはまる」の5段階で尋ねた．その他に，想起したアルバイトの勤続期間への回答も求めた．なお，質問紙には本研究で分析対象としない項目も含まれていた．

3．手続き

調査は授業内で実施した．質問紙を配布して回答を求め，その場で回収した．

Ⅲ．結　果

1．各尺度の信頼性分析および相関分析

予防焦点，役割明瞭性，リーダーの構造づくり行動についてそれぞれCronbachのα係数を算出した（Table 1）．その結果，予防焦点は$\alpha = .77$，役割明瞭性は$\alpha = .81$と十分な値を示したため，それぞれの尺度項目の加算平均を各尺度の得点とした．一方，構造づくりは$\alpha = .64$と十分な内的整合性が示されなかったことから，著しく値を低下させていた1項目を除外し，再度Cronbachのα係数を算出した．その結果，$\alpha = .85$と十分な内的整合性を示したことから，1項目を除外した残り4項目の加算平均を構造づくり得点とした．

次に，各変数間の相関係数を算出した（Table 1）．その結果，構造づくりと役割明瞭性との間に有意な正の相関がみられ（$r = .34$, $p < .01$）役割明瞭性と予防焦点との間に正の相関の有意傾向がみられた（$r = .20$, $p < .06$）．対して，構造づくりと予防焦点の間には有意な相関は示されなかった（$r = -.03$, *n.s.*）．

2．役割明瞭性の媒介効果の検討

リーダーの構造づくり行動とフォロワーの予防焦点との関連に対してフォロワーの役割明瞭性が媒介効果を有するか検討するため，共分散構造分析を行った．なお，使用した全尺度の中で最も項目数の多かった予防焦点については，Wayne, Shore, & Liden（1997）にならって各観測変数を 1 つの観測変数へと変換し，モデルを作成した．

分析の結果，モデルの適合度指標は GFI＝.95, AGFI＝.90, CFI＝1.00, RMSEA＝.02 と十分な適合度を示した．そのモデルを示したのが Figure 1 である．パスの推定値は，構造づくりから役割明瞭性が β＝.43（p＜.001），役割明瞭性から予防焦点が β＝.32（p＜.05）と有意であった．それに対して，構造づくりから予防焦点への直接のパスは有意ではなかった（β＝－.14, *n.s.*）．

次に構造づくりが予防焦点に及ぼす間接効果の有意性を検討するため，ブートストラップ法（標本抽出1000回）によってバイアス修正済み95% 信頼区間を算出した．その結果，役割明瞭性を媒介変数とする間接効果は CI＝.02―.35 と 0 を含んでおらず，有意となった（p＜.05）．加えて，構造づくりから役割明瞭性，役割明瞭性から予防焦点への直接効果はともに 0 を含んでおらず，有意となった（順に CI＝.18―.64, p＜.01; CI＝.03―.59, p＜.05）．一方，構造づくりから予防焦点への直接効果は下限が CI＝－.42―.13 と 0 を含んでおり，有意ではなかった．

以上のことから，役割明瞭性がリーダーの構造づくりとフォロワーの予防焦点の関係を完全媒介していることが示された．

Ⅳ．考　察

1．仮説の検討

本研究では，リーダーの構造づくり行動がフォロワーの予防焦点に及ぼす影響の過程についてより詳細に明らかにすることを目的に，学生アルバイトを対象にリーダーの構造づくり行動とフォロワーの予防焦点との関連における役割明瞭性の媒介効果について検討した．その結果，役割明瞭性が構造づくりと予防焦点の関係を完全媒介していることが明らかとなった．これは Neubert et al.（2008）の研究結果や，Kark & Van Dijk (2007) の想定と一致する結果といえる．リーダーが積極的に構造づくり行動を行うことで，果たすべき責任，役割が明確となり，そのことが学生アルバイトの予防焦点を高めるようである．予防焦点は望

表 1　各変数間の相関係数と各変数の平均値，標準偏差，α係数

	役割明瞭性	予防焦点	平均値	標準偏差	α係数
構造づくり	.34 **	-.03	3.59	.83	.85
役割明瞭性	—	.20 †	3.15	.79	.81
予防焦点	—	—	2.97	.68	.77

**p ＜ .01，† p ＜ .10,

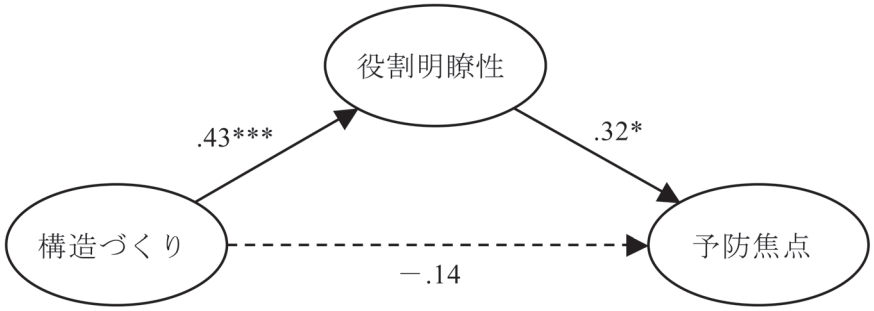

図 1　役割明瞭性を媒介変数とした共分散構造分析の結果，
注）値は標準化係数を示し，実線は有意なパス，波線は非意なパスを示す．観測変数，誤差項は省略してある．
GFI＝.95，AGFI＝.90，CFI＝1.00，RMSEA＝.02
***p ＜ .001，*p ＜ .05

ましい行動を促進し，望ましくない行動を抑制することが示されており（Neubert et al.,2008），フォロワーの予防焦点を高めることはリーダーの重要な役割の１つと位置づけることができるかもしれない．この点については次節でより詳細に検討する．

２．本研究の問題点と今後の課題

本研究の調査から，リーダーの構造づくり行動がフォロワーの役割明瞭性を高め，そのことがフォロワーの予防焦点を高めるという影響プロセスが明らかとなった．今後はこの結果がどの程度の一般性をもつのかについての検討が必要である．本研究のサンプルは比較的１年生が多く，勤続年数も約半年の学生アルバイトである．いわば成熟度については必ずしも高くはない部類に入るであろう．異なる特性をもつ学生アルバイトにも今回の結果が当てはまるのか，さまざまなサンプルを対象とした検討が必要である．

また，本研究では高められた予防焦点が何をもたらすのかについては検討していない．Neubert et al.（2008）同様，役割内パフォーマンスが高められ，逸脱行動が抑制されるのか，あるいは別の行動に影響を及ぼすのか，検討が必要である．逆に予防焦点の望ましくない影響についても考える必要がある．予防焦点は，責任を果たす，義務を遂行するという望ましい側面とともに，失敗や損失を回避するという，場合によっては必ずしも望ましくない側面も併せもつ．これは，ともすれば積極的な姿勢の欠如といったかたちで表れるかもしれない．先ほど述べた，フォロワーの予防焦点を高めることはリーダーの重要な役割であるとの主張は，あらゆる場合に当てはまるのか，ある一定の条件の下に限られるのか，吟味を要する．さらには予防焦点の職務態度への影響についても検討する必要がある．企業やリーダーにとっては，フォロワーの予防焦点を高めることが目的なのではなく，あくまでその先にある向組織的な行動の促進，非生産的行動の抑制，向組織的な職務態度の向上がより重要なはずである．

さて，本研究の分析結果では，相関係数レベルでの構造づくりと予防焦点の有意な関連はみられず，Neubert et al.（2008）で確認された構造づくりと予防焦点の直接の関連を再現することはできなかった．この点についても，他のサンプルを用いた検討が必要である．そこには学生アルバイトだけではなく社会人を対象にすることも含まれる．

最後に本研究はあくまでも横断的研究であり，構造づくりが役割明瞭性に影響を及ぼし，さらに役割明瞭性が予防焦点に影響を及ぼすという因果関係の存在が証明されたわけではない．したがって，縦断的研究を用いることでその因果関係の方向性について明らかにすることも必要である．

Ⅴ．引用文献

Brockner, J., & Higgins, E. T.（2001）. Regulatory focus theory: Implications for the study of emotions at work. *Organizational Behavior and Human Decision Processes*, **86**, 35–66.

Crowe, E., & Higgins, E. T.（1997）. Regulatory focus and strategic inclinations: Promotion and prevention in decision-making. *Organizational Behavior and Human Decision Processes*, **69**, 117–132.

Friedman, R. S., & Förster, J.（2001）. The effects of promotion and prevention cues on creativity. *Journal of Personality and Social Psychology*, **81**, 1001–1013.

Higgins, E. T.（1997）. Beyond pleasure and pain. *American Psychologist*, **52**, 1280–1300.

Higgins, E. T., & Silberman, I.（1998）. Development of regulatory focus: Promotion and prevention as ways of living. In J. Heckhausen & C. S. Dweck (Eds.) , *Motivation and self-regulation across the life span*. New York: Cambridge University Press. pp.78–113

Kark, R., & Van Dijk, D.（2007）. Motivation to lead, motivation to follow: The role of the self-regulatory focus in leadership processes. *Academy of Management Review*, **32**, 500–528.

Lockwood, P., Jordan, C. H., & Kunda, Z.（2002）. Motivation by positive or negative role models: Regulatory focus determines who will best inspire us. *Journal of Personality and Social Psychology*, **83**, 854–864.

Neubert, M. J., Kacmar, K. M., Carlson, D.S., Chonko, L. B., & Roberts, J. A.（2008）. Regulatory focus as a mediator of the influence of initiating structure and servant leadership on employee behavior. *Journal of Applied Psychology*, **93**, 1220–1233.

尾崎由佳・唐沢かおり（2011）. 自己に対する評価と接近回避志向の関連性―制御焦点理論に基づく検討―　心理学研究 , **82**, 450–458.

Rizzo, J. R., House, R. J., & Lirtzman, S. I.（1970）. Role conflict and ambiguity in complex organizations. *Administrative Science Quarterly*, **15**, 150–163.

Schriesheim, C., & Kerr, S.（1974）. Psychometric properties of the Ohio State leadership scales. *Psychological Bulletin*, **81**, 756–765.

Stogdill, R. M.（1963）. *Manual for the leader behavior description questionnaire-Form XII*. Columbus: Ohio State University, Bureau of Business Research.

武石恵美子（2002）. 非正規労働者の基幹労働力化と雇用管理の変化　ニッセイ基礎研究所報, **26**, 1–36.

Wayne, S. J., Shore, L. M., & Liden, R. C.（1997）. Perceived organizational support and leader-member exchange: A social exchange perspective. *Academy of Management Journal*, **40**, 82–111.

（平成29年12月26日受理）

Journal of the Institute for Psychological and Physical Science, Vol. 10, No. 1, 15–20, 2018

The effects of leader's initiating structure on prevention focus of student part-time worker: An examination of mediating role of role clarity.

Misako MITSUMURA (Department of Psychology, Graduate School of Psychological & Physical Science, Aichi Gakuin University)
Hiroto TAKAGI (Department of Psychology, Faculty of Psychological and Physical Science, Aichi Gakuin University)

Abstract

The purpose of this study was to examine a model in which role clarity mediates the influence of leadership on follower's prevention focus. The results from a survey of 89 student part-time workers showed that role clarity fully mediated the influence of leader's initiating structure on follower's prevention focus. Implications for future research were discussed.

Key words: leadership, regulatory focus, initiating structure, prevention focus, role clarity